

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

2021年最初のFMD News をお届けいたします。  
 本年も倍旧のご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げますとともに  
 皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

facebook



FMD  
OWNER'S CLUB



## 1月のTOPICS

### ■ 空腹時血糖値と血管内皮機能の関係：正常血糖値でもすでに血管内皮機能障害が

糖尿病は心血管イベントの危険因子として確立しており、糖尿病前症の状態から心血管リスクが増加することはよく知られています。日本糖尿病学会の基準では、110~125mg/dLが境界型(IFG)、100~109mg/dLは正常高値として分類されています。

FMDは、糖尿病患者を含む一般集団における心血管イベントの独立した予測因子です。糖尿病は血管内皮機能障害に関連していることが確立されていますが、IFGと血管内皮機能の関係についてはまだ議論の余地があります。

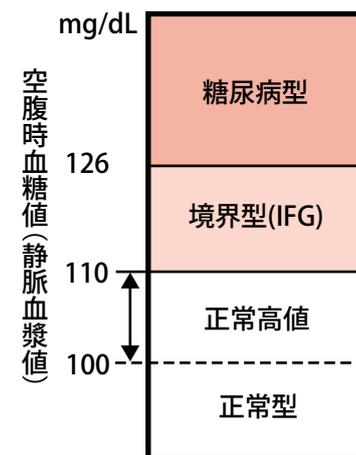
これまでに空腹時血糖値と血管内皮機能との関係に関する詳細な研究はありません。今回の検討では、正常血糖として分類されていた100mg/dL未満のFBGを、90mg/dL未満、90~94mg/dLおよび95~99mg/dLのFBGの3群に分け、FBGレベル(<90、90-94、95-99、100-109、110-125 および≥126mg/dLまたは糖尿病)とFMDの関係を多施設共同研究(FMD-J study: 31施設、n=7,265)で検討しました。

まず、日本糖尿病学会の基準に基づき4つのFBGで評価した場合(FBG<100、100-109、110-125 および≥126mg/dLまたは糖尿病)、FMDはFBGレベルの増加に伴い減少しました。また、FBG<100mg/dL群に対し他の3群のFMD値は有意に減少していました(それぞれ6.7±3.1%対5.9±2.8%、5.7±3.1%、および5.1±2.6%; p<0.001)。

さらに交絡因子を調整後、FBG<90mg/dL群に対し、95-99、100-109、105-109、110-125 および≥126mg/dLまたは糖尿病群でFBG値の増加に伴いFMDは有意に減少(FBG<90mg/dL: 6.9±3.1%、90-94mg/dL: 6.7±3.1%、95-99mg/dL: 6.3±3.1%、100-109mg/dL: 5.9±2.8%、110-125mg/dL: 5.7±3.1%、≥126mg/dLまたは糖尿病: 5.1±2.6%; p<0.001)しており、FBG<90mg/dL群に対し、95-99mg/dL群、100-109mg/dL群、110-125mg/dL群、≥126mg/dLまたは糖尿病群のFMDが有意に低値であった。

これらの結果から、100-109mg/dLのFBGと110-125mg/dLのFBGが同様に血管内皮機能障害と関連しており、さらに95-99mg/dLのFBGでIFG前の状態も血管内皮機能障害のリスクであることを示唆しています。

空腹時血糖値の判定区分



出典:日本糖尿病学会編「糖尿病治療ガイド2010」

Diabetes Res Care.2020 Oct;8(1):e001610.